

# 時々日報

(前編)

2008年(平成20年)

12月16日

火曜日

# 報告会、開催

## 阪大的発表の萌芽

### 笑えない発表は、ただの発表だ

大阪大学サイエンスシヨップは、十二月十一日、大阪大学豊中キャンパス基礎工学部J棟一階のオンラインシヨップで、短期研究調査プロジェクト第二期発表会「冬の宴」を開催。学外からの参加者も含め、約二十名が集まった。熱い発表と議論の繰り返し、冬の寒さも吹き飛ばす。

本紙では特集を組み、前編と後編に分け、その模様をお届けする。いざ、本紙記者も巻き込まれた冬の宴(前編)へと御案内―

波乱の幕開けだった。時

は師も走る、師走。しかし、平川代表は走っても間に合わないという。連絡を受けた山内研究員は、電話を握りしめたまま「始めるしかない」と決断。これを受けて中川研究員が開宴を宣言。突破りの代表者不在で、宴は始まった。

最初の発表は「Dream Team」だ。「夢のメカニズムを探れ」をテーマにしている。今回は、心理学的なトレーニングや、睡眠環境設定による「夢のコントロール」を目指した実験結果が報告された。

ある被験者は、バンジージャンプの夢を見るため縛った足をクッションの上



木曜日、午前2時の縛られた脚

に置いて寝たという。その結果、こけし製作会社に勤め、セメント作りを担当する夢を見たらしい。腰痛のオマケつきだ。発表はインタビュー形式で、被験者の生の声が聞けたことが印象的であった。

結局、他の被験者も含めて、夢をコントロールすることは、失敗に終わった。しかし、夢をコントロールすることの是非、そもそも夢とは何なのかなど、様々な議論を巻き起こした。明日からの夢見が、楽しみになる発表である。

続く発表は「Team 3sec」である。テーマは「3秒ルールの真実を探れ」だ。今回は、350名超から収集したアンケートをもとに、ルールの時間的・空間的広がり、ルール適用の条件(人的条件、物理的条件)が報告された。

中間報告と比べると、調査内容だけでなく、発表スタイルにも進歩が見られた。観衆とのやり取りをパワーポイントの合間にはさみ、単調さを防ぎ、ユーモアも盛り込んだ。街角インタビュコーナーでは、本



突然のインタビューに戸惑う記者(左)

紙記者が突然マイクを向けられた。「あなたにとって3秒ルールとは」との問いに、「愛」とベタな回答をしたことは遺憾である。年代別認知度に二つの変移点を見出すなど、興味深い発見もあった。ルールの起源とその社会背景、衛生・安全に関する心理学的検討など、興味は尽きない。

(前編終了)

後編では、桜組の発表、代表の言葉、参加者の感想を掲載する予定です。